

## 「神の言葉を無にする」

2014年09月05日

マルコによる福音書7章8節～13節。「あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。」更に、イエスは言われた。「あなたたちは自分の言い伝えを大事にして、よくも神の掟をないがしろにしたものである。モーセは、『父と母を敬え』と言い、『父または母をののしる者は死刑に処せられるべきである』とも言っている。それなのに、あなたたちは言っている。『もし、だれかが父または母に対して、「あなたに差し上げるべきものは、何でもコルバン、つまり神への供え物です」と言えば、その人はもはや父または母に対して何もしないで済むのだ』と。こうして、あなたたちは、受け継いだ言い伝えで神の言葉を無にしている。また、これと同じようなことをたくさん行っている。」

ファリサイ派の人々と律法学者たちが、主イエスの弟子たちが汚れた手で食事をしているのを見て、「昔の人の言い伝えに従って歩まず、汚れた手で食事をするのですか」と詰問した。食事前の手洗いは言い伝えによる「清め」の儀式で、手洗いの「清め」をしないことを律法違反と捉えたのである。主イエスは、預言者イザヤの言葉を引用し、彼らは口先では神を敬い、崇めているが、人間の戒めを教え、神の心から遠いと反論された。続いて、二度も同じことを語っている。「あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。」、「あなたたちは自分の言い伝えを大事にして、よくも神の掟をないがしろにしたものである。」神を信じ、隣人を愛し「共に生きよ」という最も大切な神の掟を捨てて、人間が作った言い伝えを大事にしている。見えるところでの形を整え、「愛」という本質を見失った本末転倒に陥っていると、彼らの偽善を指摘された。

それから、親子関係における偽りについて語られた。モーセの十戒の第五戒は「あなたの父母を敬え」である。人に関する戒めの中では、最初に位置づけられている。父母を敬えという戒めが、両親の信仰を継承し、聖書を伝えていく大きな力になった。この戒めがなかったならば、私たちは聖書を読むことができなかつたらう。また、出エジプト記21章17節に「自分の父あるいは母を呪う者は、必ず死刑に処せられる」とある。両親を敬い、信仰を継承することは、イスラエル人にとって大事な戒めであった。

その両親も年老い、働くことができなくなる時がくる。年金制度はないので、当然、子どもたちが両親の世話をするようになる。その時、両親のために用いられるべき金銭を「コルバン、神への供え物です」と言えば、神信仰が全てに優先していたので、誰も異議を唱えることはできない。コルバンですと言っておきながら、両親に対して何もしない。その子どもは、おそらく神への供え物として献げることはしなかつたらう。信仰深そうな言葉で、両親への責任を回避したのである。主イエスは、当時の社会で見られた信仰深さにかこつけた偽善を見抜いておられた。

信仰深さが社会的評価を得る基準になっていたのも、このような偽善がまかり通っていたのである。人間の言い伝えを守って形を整える、また信仰深そうな言葉を発している。そこには、生ける神への恐れ、困窮している者への「愛」は息づいていない。

私たちは、遠い世界に対する愛や正義を語る時、高尚な人間になったような気持ちになるが、そうではない。錯覚である。目の前の隣人を自分のように愛し、共に生きようとすることで、「愛」の神をリアルに認識できる。これを求めて生きることが求道である。